

### 情報マネジメント②

前回は情報マネジメントとして、経営活動プロセスに着目して考えてみました。今回は、経営と情報システムについて考えてみます。

経営の状態を的確に把握するための経営情報システムのみならず、マーケティング、製品開発、生産、販売、納品という事業活動すべての場面でIT（情報技術）の活用は不可欠になっていきます。インターネットを中心とするITをうまく活用することによって経営効率を高めるとともに、競争相手に対して事業の優位性を確立することができます。その一方で、ITを重要な経営資源として適切なマネジメントが求められます。

経営品質のアセスメント基準では、顧客価値を生むために情報システムのマネジメントを重視しています。経営品質のアセスメント基準が重視しているのは、情報システムの信頼性、有用性、安全性です。情報システムは利用者にとって信頼性が

高く、誰もが活用しやすいもので、情報に対するセキュリティが十分考慮されていなくてはならないということです。こうした視点から、情報システム全体の企画、設計、導入、運用それぞれのプロセスについて、組織目的にふさわしいマネジメントを行うことを求めています。

IT技術の変化とともに、情報システムも大きく変化しています。情報システム部門が組織に導入されている情報システムに関する企画、設計、導入、運用を行うことはできません。情報システムはすべての部門の日常業務で活用されるとともに、インターネットを介して社内外の他の情報システムと結びついています。こうした情報システム

の環境を踏まえた全社のマネジメントが必要です。特に情報セキュリティの問題が社会に大きなマイナスの影響を与えるリスクをもっていますので、情報セキュリティマネジメントの重要性が高まっています。情報システムは経営効率を高めるとともに、競争優位性を確立する重要な経営資源に位置づけられ

## ITの上手な活用で事業の優位性を確立

また、戦略やビジネスモデルの変更にもないシステムの変化も大きくなります。経営環境の変化に対して、情報システムが柔軟に対応できないと、既存の情報システム自体がビジネスの変革の阻害要因になるとともに、情報システムの過剰投資は経営効率を悪化させる要因にもなります。投資に対して期待した効果を得ることができなければ利益を悪化させてしまうことにつながります。

こうしたことから情報システム企画、設計、導入、運営の各プロセスでコスト、パフォーマンスの評価を行い、最適な技術の活用を行う必要があります。情報システム全体のマネジメントについては、世界レベルで確立された情報システム監査の枠組みもあります。こうした監査を活用して経営にとって効果的な情報システムとそのマネジメントが確立しているかを確認し、情報システムの課題を明らかにすることができます。情報システムに関する監査は経営全体の目的に照らして課題を発見できるように運営しなくては意味がありません。その意味で経営品質のアセスメント基準では経営全体の重要なマネジメントの一つとして情報システムのマネジメントを位置づけています。経営に関する他の重要なマネジメントと情報システムのマネジメントを関係付けて考える枠組みを提供しているのです。